



## 平成 18年 3月期 第3四半期財務・業績の概況（連結）

平成 18年 1月 31日

上 場 会 社 名 ユニ・チャーム株式会社

(コード番号 : 8113 東証第1部)

( URL <http://www.unicharm.co.jp/> )

代 表 者 代表取締役 社長執行役員 高原 豪久

問合せ先責任者 常務執行役員 企画本部長 吉原 範純

TEL (03) 3447 - 5111

### 1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 無  
最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無  
連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有 (詳細は添付資料に記載)

### 2. 平成18年3月期第3四半期財務・業績の概況 (平成17年4月1日 ~ 平成17年12月31日)

#### (1) 経営成績 (連結) の進捗状況

(注)金額は百万円未満を切り捨て

	売 上 高		営 業 利 益		経 常 利 益		四半期(当期) 純 利 益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18年3月期第3四半期	200,989	8.0	21,184	4.4	21,839	3.0	11,899	7.9
17年3月期第3四半期	186,019	2.3	22,164	10.3	22,512	11.3	12,913	1.9
(参考) 17年3月期	246,050		27,284		27,978		16,381	

	1株当たり四半期 (当期)純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益	
	円	銭	円	銭
18年3月期第3四半期	180	55	180	11
17年3月期第3四半期	194	26	192	80
(参考) 17年3月期	244	25	242	69

(注)売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

#### (2) 財政状態 (連結) の変動状況

	総 資 産	株 主 資 本	株主資本比率	1株当たり株主資本	
	百万円	百万円	%	円	銭
18年3月期第3四半期	235,725	147,227	62.5	2,252	18
17年3月期第3四半期	211,779	134,614	63.6	2,025	10
(参考) 17年3月期	215,365	137,696	63.9	2,069	30

#### 【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期 末 残 高
	百万円	百万円	百万円	百万円
18年3月期第3四半期	22,720	10,998	6,400	62,362
17年3月期第3四半期	11,723	10,144	1,128	47,207
(参考) 17年3月期	20,607	8,437	207	56,359

#### [参考]

平成18年3月期の連結業績予想 (平成17年4月1日 ~ 平成18年3月31日)

	予 想 売 上 高	予想経常利益	予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通 期	257,000	28,400	14,000

(参考) 1株当たり予想当期純利益 (通期) 211円93銭

上記の予想には、本資料の発表現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。実際の業績は、競合状況・為替の変動等にかかわるリスクや不確定要因により記載の予想数値と大幅に異なる可能性があります。

## [経営成績（連結）及び財政状態の概況]

### 1. 経営成績

当第3四半期（平成17年4月1日から平成17年12月31日まで）の経営成績の進捗状況は、通期業績予想に対して概ね順調に推移しております。国内事業では、それぞれの主力事業分野で高付加価値製品の市場投入や、積極的な販売・マーケティング活動を展開し、業績の回復に取り組んでまいりました。特に、ヘルスケア事業やペットケア事業は、市場の成長を上回るスピードで業績の拡大を継続しております。一方、海外事業では、アジア市場において着実なブランド浸透策の展開によって売上高は53億円（前年同期比21.3%増）増加いたしました。成長著しい中国では、迅速な製品開発によって常に製品の優位性を確立するなど、新たな価値提案を継続したことによって大幅な増収増益を達成いたしました。また、タイにおいてはベビー用紙オムツが好調に推移し、引き続き売上と利益の拡大をいたしました。以上の結果、売上高は前年同期より149億円増えて2,009億円（前年同期比8.0%増）となっております。利益は、原材料価格の上昇などの影響により、営業利益は前年同期より9億円減少して211億円（前年同期比4.4%減）、営業利益率10.5%、経常利益は6億円減少して218億円（前年同期比3.0%減）、経常利益率10.9%、当第3四半期純利益は10億円減少して118億円（前年同期比7.9%減）となりました。

### セグメント別の概況

#### パーソナルケア事業部門

##### ● ベビーケア事業

国内の市場価格は下げ止まりの兆しが見えてきたとはいえ、依然として厳しい状況にあります。

当社は、このような環境下においても、リーディングカンパニーとして、付加価値の高いパンツタイプ紙オムツを中心に、製品のリニューアルと広告宣伝をはじめとする積極的なマーケティング活動を展開し、市場の活性化と収益の改善に努めてまいりました。

『ムーニーマン』は機能の向上によって収益性の向上を図りました。また、『マミーポコパンツ』においては、コストダウンを推進することによって、売上成長と収益性向上の両立に取り組んでまいりました。

一方、海外では、東アジア地域参入各国（台湾・中国・タイ・マレーシア・シンガポール・インドネシア・フィリピン）において、プレミアム市場を重点に製品の機能強化を図ってまいりました。また、普及を促進し需要を喚起する積極的な販売・マーケティング活動を展開することによって、テープタイプの『Mamy Poko』とパンツタイプの『Mamy Poko Pants』のブランド浸透を図り、市場の拡大を図りながら売上と利益を順調に拡大いたしました。さらにヨーロッパにおいては、パンツタイプ紙オムツの市場への浸透を図ってまいりました。

##### ● フェミニンケア事業

国内では、市場が低調に推移している中、生理用品カテゴリーで唯一の総合メーカーとして「女性の快適を科学して自由を創造する」という事業理念のもと、安心と快適を実現する製品の開発・改良に注力し、高付加価値製品を提供することで市場の活性化に努めて

まいりました。

生理用ナプキンでは、『ソフィ ボディフィットふわピタスリム』シリーズの発売によって、新たなプレミアム市場を創造し、ナプキン市場の活性化に貢献いたしました。また、夜の不安を低減する代表的なナプキンとして支持されている『ソフィ ボディフィット』シリーズの夜用ナプキンでは、製品をより柔軟にすることでフィット性を高め、漏れ率を改善いたしました。

海外では、アジア参入各国において、長さ 35cm の夜用ナプキンを新たに発売し、積極的に販売した結果、売上を順調に拡大いたしました。また、積極的な広告投資により、市場拡大と『Sofy』及び『Charm』ブランドの市場浸透を図りました。更に、タイにおいては 2 枚重ねタイプのライナー『Sofy Double fresh』を発売することによって、タイのライナー市場に新たに「2 枚タイプ市場」を確立し、大きくシェアを拡大いたしました。中国においても上海や北京といった主要都市で確実に売上を拡大しました。

### ● ヘルスケア事業

国内ヘルスケア事業は、成長市場における競争が激しさを増す中、市場の成長を大きく上回る売上成長を達成し、店頭市場シェアを順調に拡大いたしました。我が国社会の高齢化が進む中で、「生命の喜びを追求する」を事業理念に心と身体の寝たきりゼロを目指して、『ライフリー』ブランドの開発・改良に注力してまいりました。

大人用紙オムツでは、介護保険制度が在宅介護への長期的な潮流を形成する中で、在宅における健常者の尿失禁も含めた「エルダー排泄ケア」を提案し、介護品質の向上に取り組みました。加えて、2005 年 8 月に関連会社であったユニ・チャームメンリック(株)を連結子会社化し、当社グループでの事業シナジーをより発揮させることにより、病院・介護施設を中心とした大人用紙オムツ市場における収益の拡大を加速してまいります。

また、成長著しい軽失禁製品カテゴリーでは、尿まで手軽にケアできる新しいコンセプトのパンティライナー『チャームナップ 吸水さらフィ』を発売し、軽失禁製品の使用者の拡大に取り組んでまいりました。

さらに好評の『超立体マスク』シリーズでは、『かぜ・インフルエンザ用』と『花粉用』のそれぞれの製品機能を強化いたしました。強い冬型の気圧配置の日が続きかぜに対する予防意識が高まる中、『超立体マスク』は前年の 2 倍を越す売上を獲得いたしました。これにより高機能立体型マスクカテゴリーを確立し、マスク市場の拡大を図りながらヘルスケア事業の成長と収益に大きく貢献いたしました。

海外では、高齢化が進む台湾、タイにおいて『Lifree』ブランドの展開を加速するとともに、ヨーロッパを中心とした地域においても、パンツタイプ紙オムツの売上を順調に拡大しております。

### ● クリーン&フレッシュ事業

クリーン&フレッシュ事業では、当社がこれまで培ってまいりました不織布・吸収体技術を応用した製品を通じて、お客様へ清潔・安心・新鮮を提供しています。

キッチンケアのカテゴリーから、新たに『クックアップ シャキッと食感シート』を発売し、不織布を活用した食品保存方法の提案によって新たな需要の創造に取り組んでまい

りました。また、一般用のウェットティッシュでは、ボトルタイプの新製品『シルコット ウェットティッシュハンディウェット』を発売することによって、市場の拡大を図りながら売上を大きく伸ばしました。

### ペットケア事業部門

国内の少子化・高齢化が進行していくなか、人々のペットに対する関心は益々増大し、ペットケア市場への期待は非常に大きなものとなっております。

「健康と清潔でペットの暮らし快適に」を事業理念に、ペットフード、ペットトイレタリーの2つの分野に特化して、ペットの健康と清潔な住環境を提供する事業を展開してまいりました。ペットフード部門では、飼い主の健康意識が高まる中、愛犬が生まれながらにもつ自然治癒力を活かして健康を維持する「ホリスティックケア」という考え方を採用した『愛犬元気 素材のチカラ』を発売いたしました。また、高い嗜好性と抵抗力の維持を兼ね備えた高齢猫用のグルメフード『ねこ元気 銀のスプーン 7歳以上用』を発売し、積極的な広告投資と販売促進を展開いたしました。

ペットトイレタリー部門では、室内で飼育する家庭が増える中で、リビングに設置した際の美観に配慮した猫排泄処理用システムトイレ『1週間消臭・抗菌 デオトイレ フード付き本体セット』、瞬間吸収とせっけんの香りで、「モレない」「ニオわない」清潔ペットシート『瞬間吸収 フチでもモレないスーパーデオシート』といったニーズを捉えた製品を中心に、売上の拡大に取り組んでまいりました。

以上の結果、売上・利益とも順調に伸長し、増収増益を継続いたしました。

### その他部門

その他部門では、スーパーマーケットなどを顧客とする食品包材事業において、不織布及び吸収体技術を活かしたトレイマット『フレッシュマスター』と業務用『ウェーブ』の販売に注力しました。

## 2. 財政状態

総資産は前連結会計年度末に比べ 203 億円増加して、2,357 億円となりました。また、株主資本は、95 億円増加して 1,472 億円となりました。この結果、株主資本比率は、前連結会計年度末 63.9%から 62.5%となりました。

増減の主なものは、流動資産では現金及び預金が 164 億円増加し、受取手形及び売掛金が 37 億円増加、有価証券が 24 億円減少しております。有形固定資産では、機械装置及び運搬具が 13 億円減少し、建設仮勘定が 18 億円増加しております。投資その他の資産では、投資有価証券が 24 億円増加しております。

財政状態を示す流動比率は 188%となり、自己資本比率同様に良好な状態を維持しており、株主の皆様への配当政策に応じ、新たな事業展開に向けた潤沢な資金を確保しております。

(連結キャッシュ・フロー)

当第3四半期の営業活動で得られたキャッシュ・フローは、227 億円となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益 223 億円、減価償却費 94 億円、法人税等の支払 66 億円等によるものであります。

投資活動に使用されたキャッシュ・フローは、109 億円となりました。これは有形固定資産の取得による支出 104 億円が主たる要因です。

財務活動に使用されたキャッシュ・フローは、64 億円となりました。これは平成 17 年 7 月および平成 17 年 8 月に、合わせて 49 億円(1,100 千株)の自己株式の取得や、配当金の支払 19 億円を実行したこと等によるものです。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第 3 四半期末残高は、前連結会計年度末より 60 億円増加して 623 億円となりました。

### **3 . 通期の見通し**

平成 18 年 3 月期中間決算発表時(平成 17 年 10 月 28 日公表)の予想と変更ありません。

(添付資料)

**(要約) 四半期連結貸借対照表**

(単位 百万円)

区分	当第3四半期末 (平成17年12月31日現在)		前第3四半期末 (平成16年12月31日現在)		前連結会計年度末 (平成17年3月31日現在)	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
(資産の部)		%		%		%
流動資産	125,210	53.1	94,699	44.7	104,657	48.6
固定資産	110,515	46.9	117,079	55.3	110,707	51.4
1.有形固定資産	73,073	31.0	77,925	36.8	72,798	33.8
2.無形固定資産	1,938	0.8	2,552	1.2	2,337	1.1
3.投資その他の資産	35,503	15.1	36,601	17.3	35,571	16.5
資産合計	235,725	100.0	211,779	100.0	215,365	100.0
(負債の部)						
流動負債	66,490	28.2	59,543	28.1	59,745	27.7
固定負債	11,066	4.7	8,656	4.1	8,776	4.1
負債合計	77,557	32.9	68,200	32.2	68,522	31.8
少数株主持分	10,940	4.6	8,964	4.2	9,146	4.3
(資本の部)						
資本合計	147,227	62.5	134,614	63.6	137,696	63.9
負債、少数株主持分及び資本合計	235,725	100.0	211,779	100.0	215,365	100.0

**(要約) 四半期連結損益計算書**

(単位 百万円)

区分	当第3四半期 {自平成17年4月1日 至平成17年12月31日}		前第3四半期 {自平成16年4月1日 至平成16年12月31日}		前連結会計年度 {自平成16年4月1日 至平成17年3月31日}	
	金額	百分比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	200,989	100.0	186,019	100.0	246,050	100.0
売上原価	113,621	56.5	103,174	55.5	137,341	55.8
売上総利益	87,368	43.5	82,844	44.5	108,709	44.2
販売費及び一般管理費	66,183	33.0	60,680	32.6	81,424	33.1
営業利益	21,184	10.5	22,164	11.9	27,284	11.1
営業外収益	1,333	0.7	1,089	0.6	1,639	0.7
営業外費用	678	0.3	741	0.4	945	0.4
経常利益	21,839	10.9	22,512	12.1	27,978	11.4
特別利益	1,072	0.5	4,308	2.3	5,627	2.3
特別損失	586	0.3	3,841	2.1	5,009	2.1
税金等調整前 四半期(当期)純利益	22,326	11.1	22,979	12.3	28,597	11.6
法人税等	8,975	4.5	8,702	4.7	10,647	4.3
少数株主利益	1,451	0.7	1,363	0.7	1,567	0.6
四半期(当期)純利益	11,899	5.9	12,913	6.9	16,381	6.7

**(要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書**

(単位 百万円)

区 分	期	当第3四半期 〔自 平成17年 4月 1日〕 〔至 平成17年12月31日〕	前第3四半期 〔自 平成16年 4月 1日〕 〔至 平成16年12月31日〕	前連結会計年度 〔自 平成16年4月 1日〕 〔至 平成17年3月31日〕
		金額	金額	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー		22,720	11,723	20,607
投資活動によるキャッシュ・フロー		10,998	10,144	8,437
財務活動によるキャッシュ・フロー		6,400	1,128	207
現金及び現金同等物に係る換算差額		309	66	37
現金及び現金同等物の増減額(減少: )		5,631	2,773	11,925
現金及び現金同等物の期首残高		56,359	44,434	44,434
連結子会社の決算期変更に伴う 現金及び現金同等物の増減額(減少: )		371	-	-
現金及び現金同等物の期末残高		62,362	47,207	56,359

**四半期財務情報の作成等に係る事項****連結及び持分法の適用範囲の異動**

従来、関連会社であったユニ・チャームメンリッケ㈱は株式の追加取得を行ったため当中間連結会計期間より連結子会社となりました。